

【試合の記録】

■2011年7月11日(月)UPCアリーナ■観衆2500名■15:00開始 17:29終了
 ■天候=快晴から豪雨、後に快晴/27~25度■主審=ビル・レモニア

フランス	0	0	7	3=10
日本	7	14	7	7=35

【得点経過】

1Q	01:07	日本	TD	丸田5ヤードラン(青木キック)	0-7
2Q	05:20	日本	TD	丸田5ヤードラン(青木キック)	0-14
	00:21	日本	TD	高田-小川1ヤードパス(青木キック)	0-21
3Q	07:54	フランス	TD	スプロエル-デュロー6ヤードパス(ニキリキック)	7-21
	05:03	日本	TD	古谷3ヤードラン(青木キック)	7-28
4Q	11:56	フランス	FG	ニキリ45ヤードキック	10-28
	10:58	日本	TD	東野-前田34ヤードパス(青木キック)	10-35

【チーム記録】

	フランス	日本
得点	10	35
第1ダウン	11	21
ラッシュ	18-12	29-115
パッシング	203	237
回数-成功-INT	33-21-0	28-19-0
総攻撃獲得距離	51-191	57-352
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン	0-0	2-33
キックオフリターン	6-217	3-89
インターセプトリターン	0-0	0-0
パント回数-平均	3-42.3	2-33.5
ファンブル-ロスト	2-1	1-0
反則-罰退距離	10-81	4-19
ボール所要時間	23分05秒	24分55秒
第3ダウン効率	10回中4回	8回中4回
第4ダウン効率	2回中0回	2回中1回
レッドゾーンスコア効率	3回中1回	4回中4回

フランス代表スターティングメンバー

[攻撃]

QB	13	メキシ・スプロエル
RB	22	ディミトリ・キエラノ
WR	12	ポール・デュロー
WR	18	ジャレミー・ラボ
WR	24	ジャレミー・ラロック・
WR	8	アントニー・ダブレ
OL	78	ギーオム・サリア
OL	59	アレクシス・ストロピアノ
OL	75	バスティアン・ペエレラ

OL	74	ジョン・フィリップ・エルダン
OL	79	オリビエ・ボルダン
K	15	ブルノ・ニキリ
[守備]		
DL	45	ジョバニ・ノンギー
DL	77	レミー・フォルニー
DL	98	ティボ・カピテン
DL/LB	56	フランズィー・ドロレオン
LB	48	ケビン・デュミケリス
LB	52	ニコラ・プレボ
LB	5	ジュリアン・ズパルディ
DB	25	トニ・ラヤパン
DB	26	アレクサンドロ・マルキニオン
DB	3	アムデュ・ビダレイエ
DB	9	ヌノ・ドウサントス
P	15	ブルノ・ニキリ

日本代表スタートメンバー

[攻撃]			
QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	33	末吉 智一	早稲田大学
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ
WR	11	前田 直輝	鹿島ディアーズ
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	71	小林祐太郎	富士通フロンティアーズ
K	15	青木 大介	鹿島ディアーズ

[守備]			
DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	43	脇坂 康生	パナソニックインパルス
DL	53	平井 基之	富士通フロンティアーズ
DL	96	米田 隆之	アサヒビールシルバースター
LB	2	古庄 直樹	オービックシーガルズ
LB	9	塚田 昌克	オービックシーガルズ
LB	45	鈴木将一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	16	三宅 剛司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	15	青木 大介	鹿島ディアーズ

【記者会見コメント】

◎森清之日本代表ヘッドコーチ

ーオーストリア戦の勝利とどちらが重要だったか？

「オーストリア戦と同じく重要な一戦に位置付けていた。反則、ボール・セキュリティなどを含めたファンダメンタルなどで、我々の方が少しスマートなフットボールを展開できた結果だったと思う。オーストリアもフランスも共にいいチームだと思うし、双方とも我々にとって楽な相手ではなかった」

ーカナダ戦に向けて、いかに臨むか？

「カナダはRBやWRといったスキルポジションにアスリートが揃え、ラインは大きく、とても良いチーム。タフなゲームになるのは間違いないし、我々にとって大きなチャレンジとなる。ワン・プレイ・アット・ア・タイム、ワン・ゲーム・アット・ア・ゲームを銘記して我々のベストをぶつきたい。チャンスはあると思っている」

◎日本代表ゲーム MVP DL 脇坂康生（パナソニックインパルス）

ー勝利の鍵は何だったか？

「カナダとフランスのゲームを見て、2007年川崎大会からのフランスのレベルの向上に驚いていた。ミスをしないうこと、しっかりアジャストすることをチーム全体で心掛けて臨んだ結果だったと思う」

◎ラリー・ルゴー フランス代表ヘッドコーチ

ー日本代表にいいチャレンジができたと思うか？

「どんなにいいチャレンジをしても、負けは負けだ。日本代表のように規律に溢れ、堅実なチームに対抗するにはミスがあっては勝てない。反則の多発は大きな反省点だろう。我々は日本のフィルムを見て様々な準備をしたが、この相手を下すのにはまだまだ課題が多い」

◎フランス代表 MVP QB メキシ・スプロエル

ー日本代表に対して力を発揮できたか？

「あまりにもミスが多く、悔しい結果だ。フットボールに対するディティール、プレーをやり切る姿勢、チームの規律、テクニックにおいて、我々が改善せねばならないことが明らかになったゲームだったと思う」